令和２年度　三重農研成果情報　＜普及成果＞

イチゴ種子の発芽率が低下しない簡易な長期保存方法

利用対象：種苗事業者

種子繁殖型イチゴとして 2015 年に「よつぼし」が国内で始めて実用化され、種苗会社によるセル成型苗と種子の供給が開始されました。種子繁殖型イチゴの普及を進めるには、種苗の安定供給やコスト削減が必須であり、採種した種子の発芽率を高く維持したまま保存することが重要になります。そこで、種子を保存する際の温度や湿度の影響を検討し、種子繁殖型イチゴの発芽率低下を招かない簡易な保存方法を明らかにしました。

【保存方法】

①密閉できる容器に、**②乾燥剤（シリカゲル）**と一緒に　**③冷蔵（5℃程度）**で保存します。

乾燥材の量は、種子 0.2g に 10g 程度を目安とします。

【保存のポイント】

・保存には高湿度が最も大敵であり、乾燥剤を同封することが必須です。

・乾燥剤の種類や密閉程度により効果が異なる場合があり、６か月に１度は乾燥剤の状態を確認して下さい。乾燥剤の色が変わるなど効果の低下を示す場合は、速やかに乾燥剤を交換して下さい。

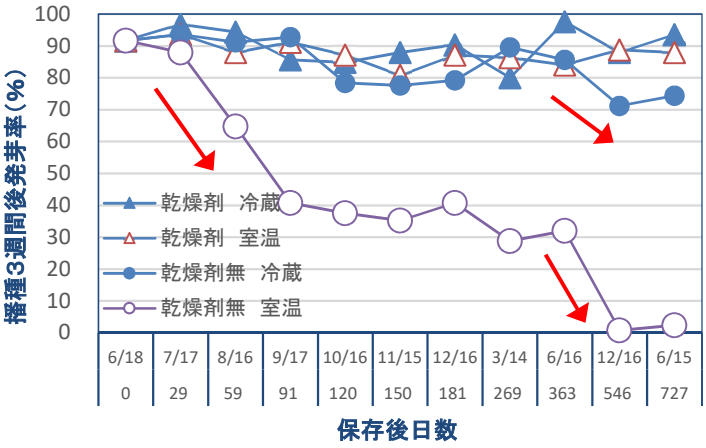
※保存例：紙袋に入れた種子を乾燥材と一緒にチャック付きビニル袋に入れる。そのビニル袋をさらに、乾燥剤を入れた密閉容器に入れて冷蔵庫で保存すると確実。

【発芽率に及ぼす保存条件の影響】

・乾燥剤（シリカゲル）を含まずに保存すると、室温では夏季に発芽率が低下します（保存後 59 日）。

・冷蔵（5℃）でも、乾燥剤がないと保存後１年半後には発芽率が低下します。

・乾燥剤を同封して冷蔵保存することが発芽率の低下を招かない最も安定した方法です。



【保存できる期間】

乾燥剤を同封した冷蔵条件（５℃）で種子を保存すると、**７年間**は 80%程度の発芽率（播種 3 週間後）を維持したまま保管することができます。

実証データ：保存 3 ヵ月後 87%、1 年 3 ヵ月後 79%、3 年 5 ヵ月後 86%、5 年 3 ヵ月後 83%、7 年 4 ヵ月後 80%

（データ間に有意差なし）

お問い合わせ先	生産技術研究室 野菜園芸研究課　北村八祥　電話 0598-42-6358 中央農業改良普及センター　安田幸良　電話 0598-42-6323
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm